

長期間美しく維持管理していくためのメンテナンス方法をご紹介します。

■ 予防メンテナンス

出入り口にマットの設置(マットメンテナンス)

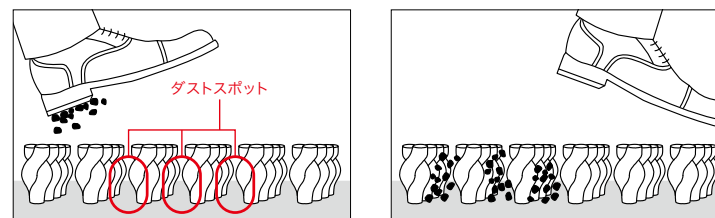
商業施設、オフィスの場合、施設内の汚れの80%は外から運び込まれます。

泥・砂・コンクリート粉・煤煙・アスファルトなどが靴底に付着し施設内のカーペットタイルでぬぐい去られます。外からの汚れを食い止めるのが、玄関マットです。

まずは、玄関の外に、雨・風・耐用型のマットを置きます。次に、風除室内に、雨の日の水分まで吸着するタイプのマットもしくはダストコントロールカーペットタイルを敷きつめます。なるべく広範囲にわたるマット類の使用が、施設内部の汚れを防ぎます。この玄関部のマット類が汚れて、泥・砂が飽和状態のまま放置すると効果は半減し、逆にマット類の汚れが内部に入ってきます。マット類が泥・砂を吸着しやすいよう、常にマット部も清掃しておきます。

■ カーペットタイルの汚れの原因

カーペットタイルの汚れの80%は外部から持ち込まれます。自然に歩いて泥・砂を落とすには、約6mの除塵スペースが必要であると言われています。

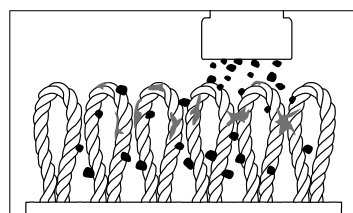


※ダストスポット：パイルの間にある汚れを蓄積する場所

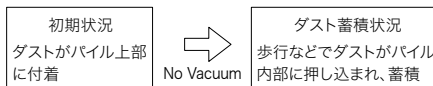
① 日常メンテナンス 衛生維持を目的とします。(目安：毎日)

【表-A】

日常メンテナンス 汚れの分類例 毎日のバキュームでドライソイルを除去します。		
1	砂、粘土	30~40%
2	酸化物、炭酸化合物	6~24%
3	炭素、カーボン	0~3%
4	髪の毛、動物の毛	10~12%
5	繊維、植物物質(綿ほこり)	10~12%



日常メンテナンスの重要性



初期状況
ダストがパイル上部に付着



ダスト蓄積状況
歩行などでダストがパイル内部に押し込まれ、蓄積



掃除機バキューム

汚れの80%は乾いた粒子の汚れです。毎日のアップライトバキュームで除去。(出入り口付近は縦、横と2回かけてください)



シミ取り(早期発見→対処が重要です)

シミを見つけたら、カーペット専用洗剤を霧吹き等で散布し乾いたウェスで吸着させてください。

② 中間メンテナンス 衛生環境の改善を目的とします。(目安：3カ月~半年/回)

【表-B】

中間メンテナンス 汚れの分類例 少量の洗剤で油污れやドライソイルを除去します。		
1	砂、粘土	30~40%
2	酸化物、炭酸化合物	6~24%
3	炭素、カーボン	0~3%
4	髪の毛、動物の毛	10~12%
5	繊維、植物物質(綿ほこり)	10~12%
6	湿気	2~4%
7	ガム、樹脂	6~10%

クリスタルクリーニングの実施例



バキューム



特殊洗剤散布



ロータリーブラシ洗浄



汚れを吸着した洗剤を回収

■ 中間メンテナンス工法

日常メンテナンスでは落ちない汚れを少量の特殊洗剤やスチームで除去します。

・パウダークリーニング ・ボンネットクリーニング ・ドライフォームクリーニング

※状況によりメンテナンスの頻度は異なりますので、必ず専門業者へご確認ください。

③ 定期メンテナンス 蓄積してしまった汚れの除去を目的とします。(目安：半年~1年/回)

【表-C】

定期メンテナンス 汚れの分類例 カーペット専用洗剤と水または温水で除去します。		
1	砂、粘土	30~40%
2	酸化物、炭酸化合物	6~24%
3	炭素、カーボン	0~3%
4	髪の毛、動物の毛	10~12%
5	繊維、植物物質(綿ほこり)	10~12%
6	湿気	2~4%
7	ガム、樹脂	6~10%
8	タール、オイル、油脂	3~8%
9	その他、未確定物質	1~3%

■ 定期メンテナンス工法

カーペット専用洗剤で洗浄後にリンスして復元、蘇らせる工法が特徴。

- ・ロータリークリーニング
- ・スチームクリーニング
- ・エクストラクション



洗剤を出しながら洗浄



水または温水でリンス→乾燥

※衛生消毒薬品は必ず事前に目立たない箇所でも影響が無いことを確認してから使用してください。

※状況によりメンテナンスの頻度は異なりますので、必ず専門業者へご確認ください。

※【表A・B・C】の1~5が乾いた粒子で通常80%~90%を占めます。その他6・7・8の割合は少ないものの、著しく美観を損ねる原因となり、より高度なクリーニング技法が必要となります。

※詳しいメンテナンス方法は、カーペットタイルメンテナンスの知識と経験を持つライセンスに合格したクリーニングテクニシャンにご相談ください。

【日本カーペットクリーナーズアカデミー JCCA】
www.japan-carpet.com